

創刊の辞

防衛研究所所長 大森 敬 治

ここに、『防衛研究所戦史部年報』を創刊できますことは、誠に喜ばしい限りであります。

防衛研究所は、昭和二十七年八月一日に保安研修所として発足ののち、昭和二十九年には自衛隊の創設にともない防衛研修所と改称され、さらに昭和六十年には現在の防衛研究所へと発展を続け、本年は満四十六年を迎えることとなります。この間、防衛庁における最高の戦略研究機関、教育機関として、我が国の防衛政策及び防衛理論の形成と幹部自衛官その他の幹部職員の育成に大きな役割を果たしてきました。

戦史部は、昭和三十一年五月戦史室として防衛研修所に編入され、「戦史に関する調査研究及び戦史の編纂」を実施してまいりました。特に、昭和四十年十一月の防衛庁事務次官通達により、『戦史叢書』を公刊することとなり、昭和五十五年一月全一〇二巻を完結するにいたりました。この『戦史叢書』編纂は戦史部の大事業でありましたが、また、防衛研究所の歩みにおいても大きな足跡として記録されています。

冷戦の終焉とともにイデオロギーによる対立は氷解し、世界の安全保障環境は新たな展開を見せていますが、今後の国際情勢の分析にあたっては、従来の見方とは異なる総合的な視点からの検討が必要であります。「温故知新」は『論語』の有名な言葉ですが、防衛研究所は歴史の教訓を多く含む史料を保有しており、これらは我が国の貴重な資料であると同時に、今後の我が国の安全保障を考える上での重要な研究財産でもあり、更なる活用が期待されていると言えます。

現在の国際安全保障環境においては、適切な規模の質の高い防衛力の建設に努めるとともに、防衛交流、安保対話等の信頼

醸成措置を推進し、より安定した地域の安全保障環境の構築に努めることが、我が国の平和と安全を確保する上で極めて重要であります。防衛研究所においても、防衛研究交流の推進、国際安全保障セミナーの開催等様々な信頼醸成活動を行っていますが、戦史部はその重要な一翼を担っております。信頼関係を醸成し、より安定した安全保障環境を形成して行くためには、歴史についての相互理解を進めることがその基礎として必要であることは言うまでもありません。

この度の『防衛研究所戦史部年報』の刊行が、今後の我が国の安全保障研究に貢献するとともに、各位のご協力を得ながら戦史研究への理解が一層深まりますことを切に願う次第であります。

平成十年三月